



JST 理事長 記者説明会

平成29年10月19日



科学技術振興機構

国際競争・共創時代 におけるJSTの国際戦略



科学技術振興機構

JST改革における「国際化」

濱口プランより

1. 独創的な研究開発に挑戦するネットワーク型研究所の確立

◆ イノベーション・エコシステムの構築

◆ オープンサイエンスへの対応

◆ 国際化の更なる強化

2. 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言

◆ 科学技術イノベーションに関するインテリジェンス機能の強化

3. 未来を創る人材の育成

◆ ハイリスク・挑戦的な研究開発を主体的にプロデュースする人材の育成

◆ 研究開発プログラムを通じた若手研究人材の育成

◆ イノベーション創出の活性化に必要なダイバーシティの推進



JST国際戦略(2017年8月改定)

100% global

□ 国際化は以下の観点から不可欠

- 科学技術イノベーションの最先端での活躍
- 知や専門性の交換と共有
- 多様性を増しイノベーションに繋げる

□ 国際化の3つの重点

- **オープン化とパラダイム転換**
- 研究開発に係る高度人材の育成及び流動性促進
- 世界全体の目標達成への貢献

科学技術イノベーションの変容とJSTがなすべき事

JSTは、変革の時代において科学技術を基盤とした新たな価値創出を先導

我々を取り巻く環境と機会

科学技術イノベーションの在り方の大きな変容

- イノベーションの起こり方の変化(デジタル化、国際協業)
- グローバルな課題への取り組みと共通の目標達成 (SDGs等)
- オープン化の大潮流 (オープンサイエンス、オープンイノベーション他)

JSTのなすべき事

- ◆ 日本の研究開発力強化
- ◆ 日本の科学技術イノベーション政策の実施 (Society 5.0等)
- ◆ イノベーションの源泉としての多様性促進
- ◆ 頭脳循環

**グローバルな視点と
国際化が不可欠**

JST国際戦略(2017年8月改定)

100% global

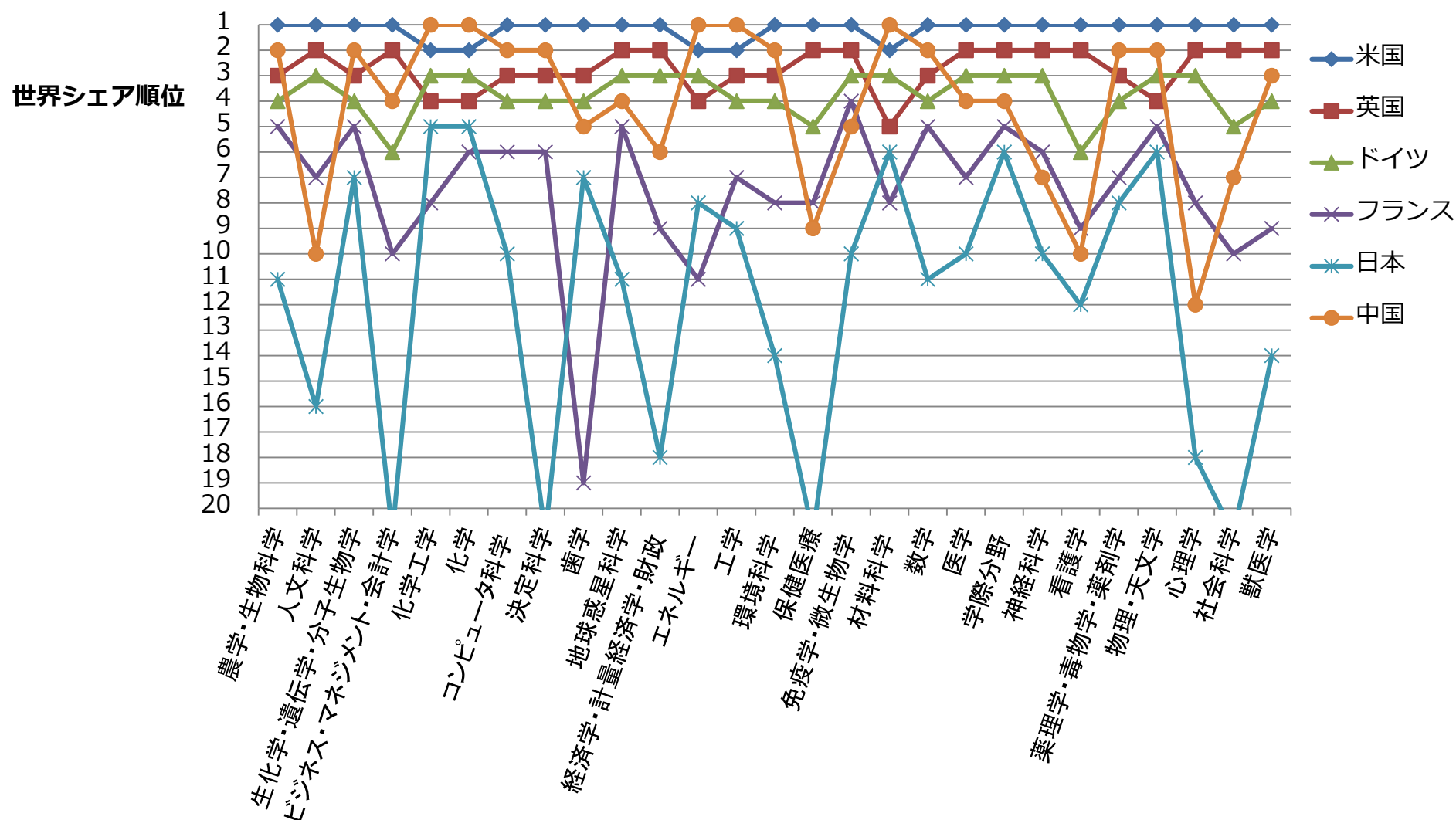
□ 国際化は以下の観点から不可欠

- 科学技術イノベーションの最先端での活躍
- 知や専門性の交換と共有
- 多様性を増しイノベーションに繋げる

□ 国際化の3つの重点

- オープン化とパラダイム転換
- **研究開発に係る高度人材の育成及び流動性促進**
- 世界全体の目標達成への貢献

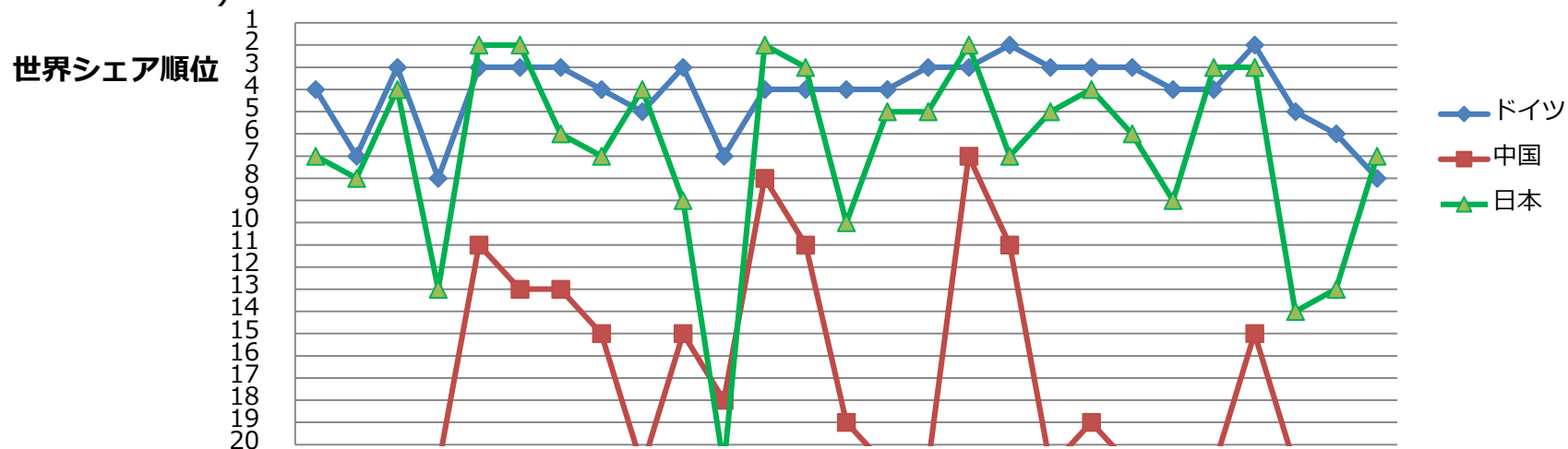
TOP10%論文数 (2010-2015年) の国際シェアの各国順位



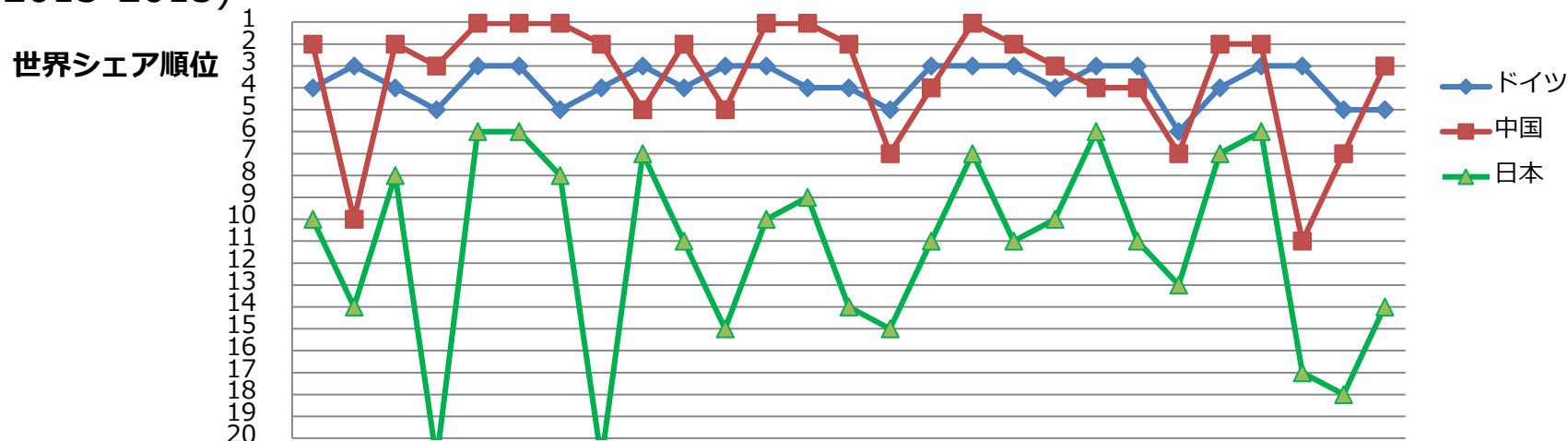
出典：Scopusデータベース(1996-2015) (Elsevier社) を基にJSTで集計したものである。

TOP10%論文国際シェアにおける日本・中国・ドイツの変化

(1996-1998)

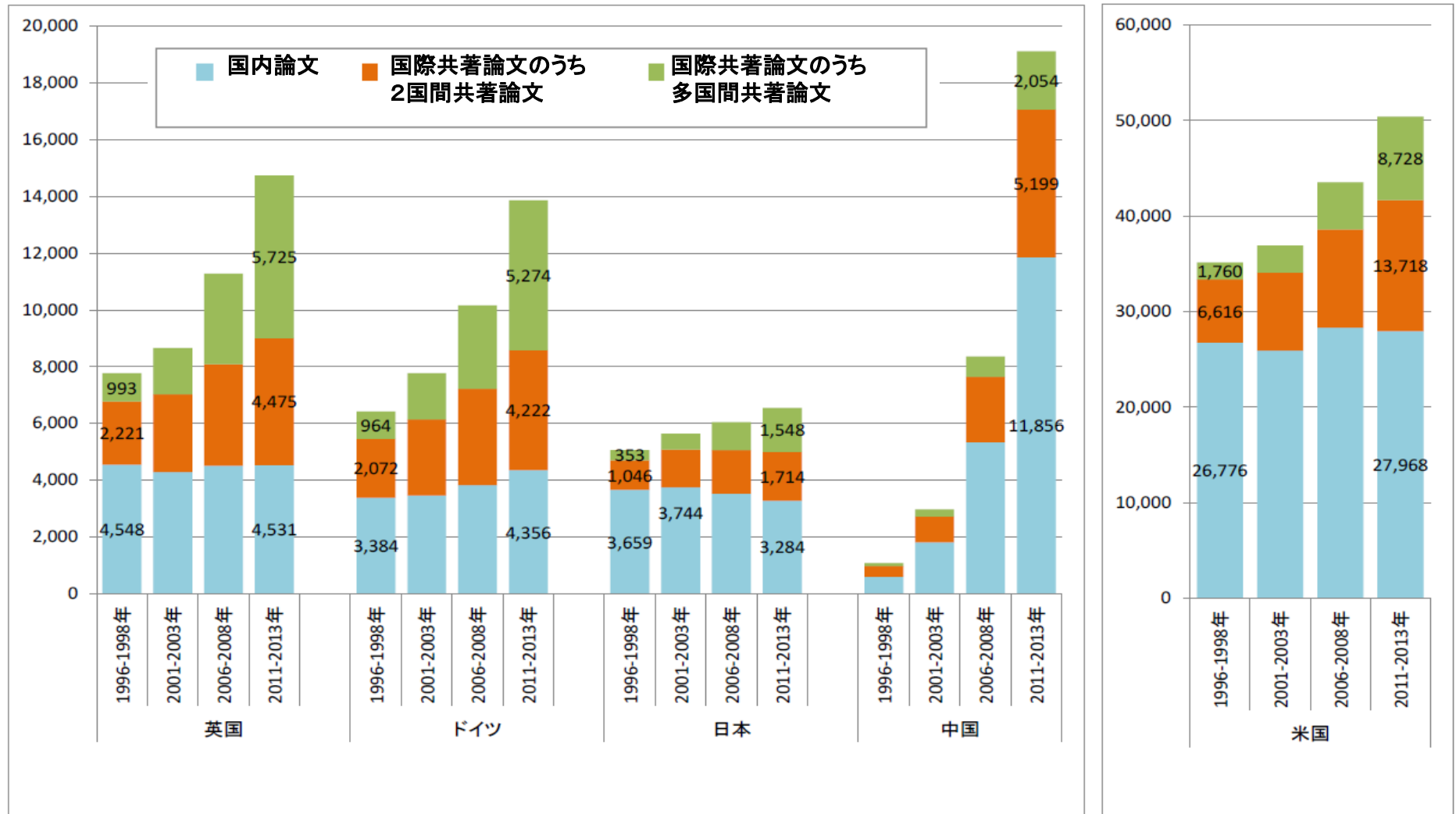


(2013-2015)



出典：Scopusデータベース（Elsevier社）をもとにJSTで集計したものである。

主要国のTOP10%論文における国際共著



出典：NISTEP 調査資料-239 「科学研究のベンチマーキング2015－論文分析でみる正解の研究活動の変化と日本の状況－」（2015）をもとに
J S T が加工・作成。

既存プロジェクトへの追加予算の配賦による国際化支援

戦略目標の達成を主目的として以下を支援

- トップサイエンティスト同士の共同研究
- 科学技術先進国との戦略的な連携
- トップクラスの研究者を対象とした国際頭脳循環促進
- レクチャーシップ等を通じた国際的な研究者育成
- ワークショップの開催等、国際的な成果発信

戦略事業における国際連携強化

平成29年度における海外からの研究者受入予定（実績含む）

事業	プロジェクト数	受け入れ人数	受け入れた研究者の 国・地域数
CREST	40	68	20カ国
ERATO	4	7	5カ国
ACCEL	4	5	4カ国
合計	48	80	21カ国

平成29年10月現在

JST国際戦略(2017年8月改定)

100% global

□ 国際化は以下の観点から不可欠

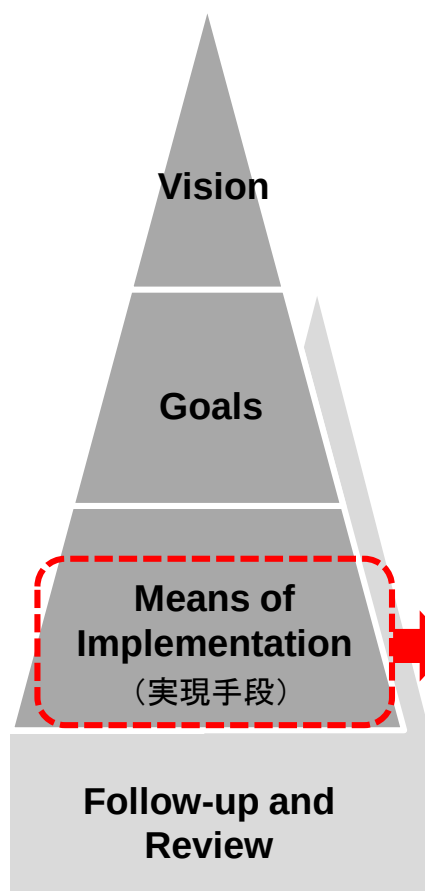
- 科学技術イノベーションの最先端での活躍
- 知や専門性の交換と共有
- 多様性を増しイノベーションに繋げる

□ 国際化の3つの重点

- オープン化とパラダイム転換
- 研究開発に係る高度人材の育成及び流動性促進
- **世界全体の目標達成への貢献**

持続可能な開発目標(SDGs)の達成への貢献

JSTは、SDGsの達成には科学技術イノベーションが必要不可欠であることを踏まえ、事業の運営を通じて、これに積極的に貢献して参ります(2017年9月1日に機構内に STI for SDG タスクチームを立ち上げ、JSTの各部署の長が共に取り組む体制を構築)。



- People
- Planet
- Prosperity
- Peace
- Partnerships



- 17 Goals, 169 Targets



- Financing for Development (ファイナンス)
- Science, Technology and Innovation (科学技術イノベーション)
- Institutions/capacity building, trade, partnerships, data (行政機構の組織能力)

- High Level Political Forum
- Global Indicator Framework

(金平氏 (World Bank) 作成資料に追記)

STI for SDGs タスクチーム活動の共有

科学オープン・フォーラム

- 2016.11.03 サイエンスアゴラ2016における注目セッション（東京）
- 2016.12.09 南アフリカ科学フォーラムにおけるセッション（プレトリア）
- 2017.02.17 米国科学振興協会（AAAS）年次総会のワークショップ（ボストン）

国際連合関連イベント

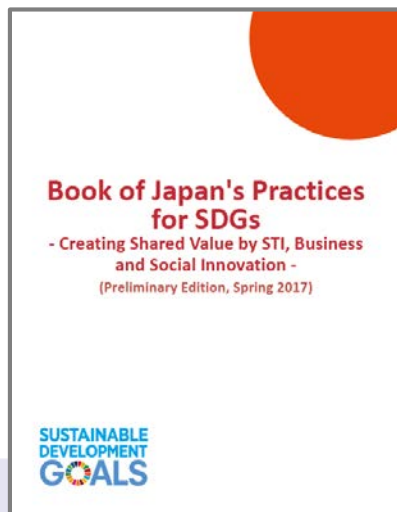
- 2016.11.29 SDGのための科学技術活用サミット（ニューヨーク）
- **2017.05.15-16 国連科学技術イノベーション(STI)フォーラム（ニューヨーク）**
- 2017.07.13-14 国連ハイレベル政策フォーラム（HLPF）（ニューヨーク）

国内のステークホルダーのためのプラットフォーム

- 2017.02.14 第1回STI for SDGs意見交換会（於：JST、東京）
- 2017.06.22 第2回STI for SDGs意見交換会（於：JST、東京）
- 2017.09.05 公開シンポジウム「SDGsとSTI」（東京）※国連大学共催
- 2017.10.11 第3回STI for SDGs意見交換会（於：JST、東京）

国連STIフォーラムにてSDGs達成に向けたSATREPS等の役割を議論するサイドイベントを開催

- 国連日本代表部・世界銀行・AMED・JICA・JST共催で、数ある研究開発プログラムの中で、日本だけでなく開発途上国も共にSDGs達成に向けて具体的に貢献しているSATREPSを事例に、革新的な解決策や、グローバルな能力や連携の共創について議論（約100名が参加）。
- また、SATREPSを含む日本の「SDGsの達成に向けた産官学NGO等の取組事例」を冊子にまとめ、同サイドイベントで配布。この冊子はSTIフォーラム本会議の開会挨拶冒頭で共同議長（ケニア・カマウ大使）により、SDGs達成に向けた具体的な活動として100ヶ国・約700名の参加者にも紹介された。
【日本語版リンク】：http://www.jst.go.jp/pr/intro/sdgs/doc/SDGs_book_JP_2017.pdf



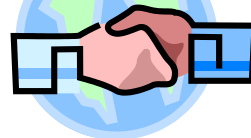
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)

～我が国の優れた**科学技術**と**ODA**の連携による

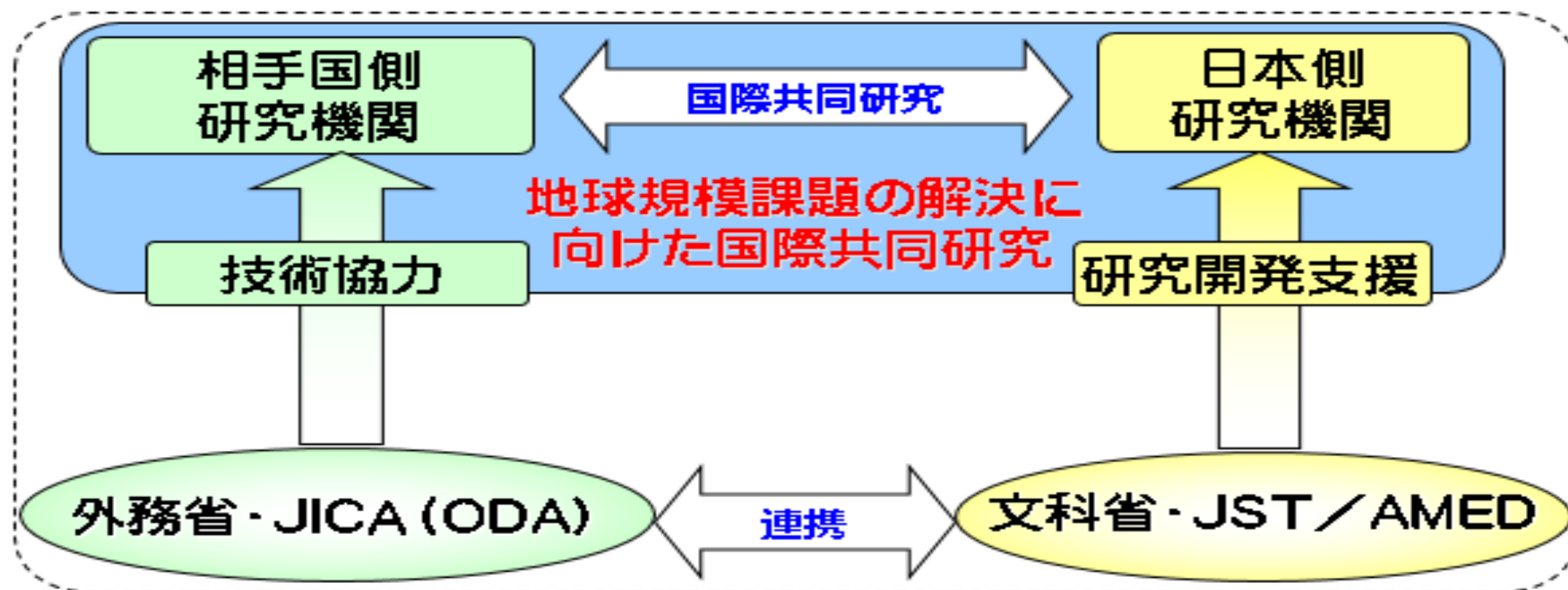
地球規模の課題解決に向けた国際共同研究～

連携の高度化・
相乗効果

我が国の科学技術を発展させる
手段としての**外交**



外交手段としての
科学技術



SATREPSの研究分野・目的

□ 研究分野・領域

- ・環境・エネルギー（環境領域、低炭素領域）
- ・生物資源 ・防災 ・感染症 H27年度～AMEDへ

□ 目的

1. 日本と開発途上国との国際科学技術協力の強化
2. 地球規模課題の解決と科学技術水準の向上につながる新たな知見や技術の獲得、これらを通じたイノベーションの創出
3. キャパシティ・ディベロップメント※

～研究成果の社会実装に向けて～

SATREPSでは、**社会実装の構想**が必要

採択国一覧

47カ国 125課題

※2017年10月時点
AMEDに移管した感染症課題を含む



地域	採択国数	採択課題数
アジア	14 カ国	65 課題
アフリカ	17 カ国	32 課題
中南米	9 カ国	20 課題
その他	7 カ国	8 課題



トピックス



科学技術振興機構

世界科学館サミット (SCWS)2017 開催



科学技術振興機構

世界の科学館を牽引するリーダーらによる国際会議、アジア初開催 世界科学館サミット2017を日本科学未来館にて開催(11月15日～17日)

世界科学館サミットは3年に一度開かれる国際会議で、世界の科学館の代表者をはじめ、教育関係者、政策関係者、企業関係者らが一同に会し、科学技術への市民の関わりについて、また急速に変化する社会のなかで科学館が果たすべき役割について、議論し提言を行っています。

本年開催する世界科学館サミット2017では、「世界をつなぐー持続可能な未来に向かって」をメインテーマとし、地域レベルから地球規模の課題まで幅広くとりあげ、科学館が他の業界組織と連携した新しいモデルへと変革し、SDGsの達成や持続可能な社会の実現に貢献していくための戦略について多様なセッションで議論します。

また、サミットの開催に先立ち6月には、グローバル・サステナビリティへの市民参加を推進するための科学館行動指針「東京プロトコール」が世界の科学館代表者たちにより合意されました。

【開催概要】

開催日程： 2017年11月15日(水)～17日(金)

開催場所： 日本科学未来館(東京都江東区)

想定参加者：参加者500名、参加国50カ国

科学館、大学/研究機関、政府/行政、企業、国際組織、
NGO/NPO、科学コミュニケーション機関等の関係者

主催： 日本科学未来館

共催： 文部科学省



「東京プロトコール」ポルトガルでの署名式の様子

【主な招待講演者】

建築、生命科学、地球環境、食料などの分野から、世界を代表する識者にご講演いただきます。それぞれの視点や経験から、3日間の議論へのヒントや科学館への期待などについてお話しいたします。



安藤忠雄（建築家/東京大学名誉教授）
2010年文化勲章など多数の受賞実績。2000年「瀬戸内オリーブ基金」を設立。



ジョン・クレブス卿（オックスフォード大学ジーザスカレッジ 名誉フェロー）
2000年-05年にかけて、英国食品基準庁の初代長官として、BSE問題で揺れた英国食品行政を立て直した。



ゴードン・マクビー（国際科学会議会長/ウェスタン大学(カナダ)名誉教授）
フューチャー・アース評議会共同議長。2007年 IPCCのノーベル平和賞受賞で主要貢献者として評価を受ける。



サリー・デイヴィス卿（英国政府主席医務官）
2010年6月よりイングランド主席医務官および英国政府主席医療アドバイザー。2014年-16年にかけてWHOの執行理事会委員、AMRIに関する戦略・技術アドバイザー委員会のチェアを務める。



スマヤ・エル＝ハッサン王女（ヨルダン・ハシェミット王国王立科学協会 会長）
科学によるアラブ世界の発展や変化の促進を提唱し、活動を牽引。11月にヨルダンで開催される「世界科学フォーラム」において議長を務める。



山中伸弥（京都大学iPS細胞研究所(CiRA) 所長・教授）
整形外科医として病院で2年間勤務後、基礎研究者の道へ。2006年に世界で初めてiPS細胞の作製成功を報告し、2012年にノーベル生理学・医学賞を英国のジョン・ガードン博士と共同受賞。

【一般来館者向けの企画】

世界科学館サミットの開催にあわせ、未来館では一般来館者向けの企画を実施します。

■パネル展示「もうえられない？ 地球 Sold Out！～SDGs×未来逆算思考～」

広く一般にむけてSDGsに関する情報を発信し理解を促すとともに、持続可能性について来場者が思考し、それぞれがアクションをおこすことで、地球規模の諸課題の解決につなげていくことを目指します。

開催日時： 2017年11月1日(水)～2018年1月8日(月・祝)

開催場所： 日本科学未来館 3階「未来をつくる」内

参加費： 入館料のみ



■特別展示「ビューティフル・ライス～1000年おいしく食べられますように」

アジアの食文化の基盤である米を切り口に、持続可能な農業、さらには持続可能な社会を構築するための科学技術について広く情報を発信します。

開催日時： 2017年11月11日(土)～2018年1月8日(月・祝)

開催場所： 日本科学未来館 1階コミュニケーションロビー

参加費： 無料



※ご取材について

世界科学館サミット2017の会期中、また一般来館者向けの企画をご取材いただけます。

詳細については、未来館広報(press@miraikan.jst.go.jp)までお問い合わせください。



科学の甲子園ジュニア

～科学技術への興味・関心を喚起し、裾野を拡大するとともに、才能を伸ばす～

概要

全国の中学校等が**都道府県対抗**(中学1・2年生6人から成る**チーム制**)で、**実生活・実社会との関連、融合領域、説明能力**等に配慮した、理科・数学等の複数分野における筆記・実技競技を行い、チームでの総合点を競う。優勝チームには文部科学大臣賞等を授与。**各種企業連携**も推進。

第5回科学の甲子園ジュニア全国大会

日時：平成29年12月1日(金)～3(日)

第1日目 開会式、特別講演、筆記競技

第2日目 実技競技2種目、地元研究機関によるブース展示、フェアウェルパーティー

第3日目 エキシビション、協賛企業等によるブース展示、表彰式

場所：つくば国際会議場 および つくばカピオ(茨城県つくば市竹園)

表彰：優勝チームに文部科学大臣賞授与、副賞として高校版全国大会に招待、JST理事長賞

茨城県知事賞、つくば市長賞(予定)ほか協賛企業による表彰多数

主催：国立研究開発法人 科学技術振興機構

共催：茨城県、茨城県教育委員会、つくば市

**11月9日に記者説明会を開催します！
(別紙をご覧ください)**

生徒交流会



実技競技①
「クロマトグラフィーで色素分析」



表彰式



中学生の発達段階
(**創造性の育成、キャリア教育**)も踏まえた内容を検討



科学の甲子園
イメージキャラクター アッピン